

コロンビア月例報告（2月分）

外交・内政状況

2017年3月

在コロンビア日本国大使館

E-mail : info@ba.mofa.go.jp

I 概要

【内政】

- 2日 E L Nによる元国会議員の人質の解放
- 7日 政府とE L Nとの和平交渉開始式典（於：エクアドル）
- 7日 外国企業からの資金流入疑惑に関する検事総長記者会見
- 18日 F A R Cの集住地域への移動完了
- 19日 ボゴタ市内におけるE L Nによる爆弾テロ事件の発生
- 23日 治安保証委員会の設置
- 23日 F A R Cの警護に関する政令
- 24日 新法務大臣の任命

【外交】

- 1月31日～2月5日 ボコバ・ユネスコ事務局長の当国訪問
- 5～6日 オルギン外相のグアテマラ訪問
- 7日 オルギン外相のメキシコ訪問
- 8日 コロンビア政府によるフィリピン政府への抗議
- 11日 サントス大統領のトランプ米国大統領との電話会談
- 11～15日 ヒギンス・アイルランド大統領の当国訪問
- 13日 コロンビア政府による北朝鮮非難声明
- 21日 オルギン外相のフランス訪問
- 23日 コロンビア人囚人の中国からの送還
- 23～24日 オルギン外相のポルトガル訪問
- 27～28日 オルギン外相のスイス訪問
- 27日 日・コロンビア政策協議（於：東京）
- 28日 中国におけるコロンビア人死刑囚の死刑執行

II 本文

【内政】

1 E L Nによる元国会議員の人質の解放

2日、E L Nの人質となっていたオディン・サンチェス元国会議員が解放され、チョコ県バウドーにおいて赤十字国際委員会に引き渡された。サンチェス氏は赤十字のヘリコプターにてキブドーまで移送された後、家族と対面した。

これと同時に、交換条件とされていた政府によるE L Nのゲリラ2名の解放が行われた。2名のゲリラはサンタンデル県ヒロンにあるパロ・ゴールド刑務所に収監されていた。

2 政府とE L Nとの和平交渉開始式典

(1) 7日、エクアドルのキト郊外のカシャパンバ農園においてコロンビア政府とE L Nとの正式な和平交渉開始式典が開催された。レストレポ（コロンビア）政府側和平交渉団長、(通称)パブロ・ベルトランE L N側和平交渉団長、クリスト内務相、ロペス労働相、ロング・エクアドル外相、パティーニョ・エクアドル国防相、交渉の保証国であるエクアドル、ブラジル、チリ、キューバ、ノルウェー及びベネズエラの代表が参加した。

(2) ベルトランE L N側和平交渉団長は、富と権力の再配分という基本的かつ緊急の変化を起こしたい旨、自分たちは全ての少数者を代表する貧民による政治的・軍事的表現主体である旨、和平交渉の保証国に加えて、新たに「同伴国グループ」となったドイツ、オランダ、イタリア、スウェーデン及びスイスに感謝する旨等述べた。

(3) これに対してレストレポ政府側和平交渉団長は、2016年3月に合意した交渉議題を忠実に守りたい旨、E L Nを独自のアイデンティティーと歴史を持った組織として認知する旨、E L Nの政治団体への転換を支援する旨等述べた。

3 2014年大統領選挙時の外国企業からの資金流入疑惑に関する検事総長の記者会見

7日、マルティネス検事総長は記者会見を開き、ブラジルのオデブレヒト社汚職事件の捜査状況に関し、2014年大統領選挙時に、(ウリベ派の)スルアガ候補及びサントス大統領陣営の双方に同社の資金が流入していた疑惑の捜査がなされている旨発表した。

4 F A R Cの集住地域への移動完了

18日、カケタ県ラ・モンタニータにある集住地域に、F A R C第3、第14及び第15戦線が到着し、F A R Cの集住地域への移動が完了した。

本件に関してサントス大統領は、「F A R Cの武装解除及び社会への再統合が近いということは歴史的な快挙である。和平は進展するということを示した者達（当館注：F A R Cの集住地域への移動作業に関与した国軍等を含む全ての関係者）に感謝する。」と述べた。

5 ポゴタ市内におけるE L Nによる爆弾テロ事件の発生

19日、ポゴタ市内サンタマリア闘牛場付近にて爆弾テロ事件が発生した。数日後に警察官1名が死亡した他、25名が負傷し、そのうち23名が警察官であった。本件は、動物愛護団体による闘牛に対する抗議活動を警戒していた警察官を狙った犯行であった。25日、E L Nが本件事件の犯行声明を出した。

6 治安保証委員会の設置

23日、サントス大統領は、和平合意において規定されていた元F A R C兵及びF A R Cが去った後の地域の安全・治安を保証するための措置の強化策である治安保証委員会の設置を発表した。

7 F A R Cの警護に関する政令

23日、サントス大統領は関連する5本の政令により、F A R C幹部及びF A R Cの後身となる政党の党員及びその家族の安全を保証するための措置を規定した。同措置においては、元F A R C兵が、警護員としてF A R C幹部及びF A R Cの政黨員の警護をすることが含まれており、警護員の月給は1,825,000ペソと規定された。

8 新法務大臣の任命

24日、サントス大統領はヒル新法務大臣を任命した。同大臣は、アンティオキア大学法学部を卒業しており、O A S汎米州人権委員会委員であった。

ロンドーニョ前法務大臣は、2月16日に辞意を表明した。辞任理由は、上院議員選挙への出馬のため。

【外交】

1 ボコバ・ユネスコ事務局長の当国訪問

1月31日～2月5日、ボコバ・ユネスコ事務局長が、2～5日に当地で開催されたノーベル平和賞サミットの特別賓客として来訪し、1日、オルギン外相、ジハ教育相、ガルセス文化相、ルナ情報技術・通信相等と会談した。また2日、同事務局長は、サントス大統領とも会談した。

2 オルギン外相のグアテマラ訪問

5～6日、オルギン外相は、グアテマラを公式訪問し、6日、ジミー・モラレス・グアテマラ大統領を表敬訪問した後、カルロス・モラレス外相と会談した。また、オルギン外相は、グアテマラ駐在の外交団に対して、コロンビアの和平プロセスに関する講演会を行った。

3 オルギン外相のメキシコ訪問

7日、オルギン外相は、メキシコを公式訪問し、ビデガライ・メキシコ外相と会談し、太平洋同盟等に関して協議した。

4 コロンビア政府によるフィリピン政府への抗議

8日、コロンビア外務省は、フィリピン外務省に対して抗議文を送付した。同抗議は、セサル・ガブリア元大統領が、ニューヨークタイムズ紙の意見欄において、ドゥテルテ・フィリピン大統領による麻薬取締の強硬策を批判したことに対して、ドゥテルテ大統領がガブリア元大統領を罵倒する発言をしたことに対して行われた。

5 サントス大統領のトランプ米国大統領との電話会談

11日、サントス大統領はトランプ米国大統領と電話会談した。トランプ大統領は、コロンビアの和平プロセスへの支持を表明するとともに、米国においてコロンビアとの首脳会談を実施することへの関心を表明した。

6 ヒギンス・アイルランド大統領の当国訪問

11～15日、ヒギンス・アイルランド大統領が当国を訪問した。12日、ヒギンス大統領はFARC集住地域の一カ所を訪問し、14日、サントス大統領と会談した。同会談において、サントス大統領は、北アイルランド和平プロセスから学んだ教訓につき述べた。また、ヒギンス大統領は、プトゥマヨ川上流地域の先住民団体と面会した。同先住民は、20世紀初頭にゴム採集者により絶滅の危機に瀕していたが、一人のアイルランド人が彼らを救ったとされている。

7 コロンビア政府による北朝鮮非難声明

13日、コロンビア外務省は、北朝鮮によるミサイル発射を非難する声明を発出した。

8 オルギン外相のフランス訪問

21日、オルギン外相はフランスを訪問し、フランスとUNICEF共催の戦争からの児童の保護に関する国際会議に参加した。

9 コロンビア人囚人の中国からの送還

23日、コロンビア政府は、中国で麻薬取引により無期の禁固刑を課されていたコロンビア人女性の18年の禁固刑への減刑及び残りの刑期のコロンビアでの履行を、中国政府から認められた。本件措置は同人の健康上の問題を理由とした人道的措置であり、コロンビア人囚人の中国からの本国送還としては2例目となる。

10 オルギン外相のポルトガル訪問

23～24日、オルギン外相は、ポルトガルを訪問し、23日、ソウザ・ポルトガル大統領と会談し、24日、シルバ・ポルトガル外相と会談した。また23日及び24日、オルギン外相は、駐欧州各国コロンビア大使との会議に参加した。

11 オルギン外相のスイス訪問

27～28日、オルギン外相はスイスを訪問し、国連人権理事会の第34回ハイレベル・セグメントに参加し、コロンビアの和平プロセスにつき説明した。27日、オルギン外相は、グテーレス国連事務総長と会談し、28日、ゼイド国連人権高等弁務官と会談した。

12 日・コロンビア政策協議（於：東京）

27日、ロンドーニョ筆頭外務次官は訪日し、高瀬外務省中南米局長との間で二国間関係全般に関して政策協議を実施した。

13 中国におけるコロンビア人死刑囚の死刑執行

28日、中国においてコロンビア人の囚人男性が、死刑を執行された。同人は、死刑を宣告された初のコロンビア人だった。罪状は麻薬取引の再犯だった。コロンビア政府は、中国政府に対して寛大な措置を要請していたが、中国政府の決定は覆らなかった。